

総合科学技術会議 評価専門調査会  
「イネゲノム機能解析研究」  
評価検討会（第1回）議事概要

日 時：平成21年2月17日（火）10：00～12：06

場 所：中央合同庁舎4号館 共用第2特別会議室（4階）

出席者：廣橋座長、飯島座長代理、奥村委員、本庶委員、小林委員、大塚委員、  
河野委員、生源寺委員、田中委員、中村委員

事務局：岩橋審議官、天野参事官

説明者：農林水産省農林水産技術会議事務局研究開発官(食の安全・基礎基盤)  
門脇研究調整官、山本研究専門職、菅野研究専門官

- 議 事：1. 開 会  
2. 評価検討会の調査・検討の進め方について  
3. 研究開発内容の説明と質疑応答  
4. 討議  
5. 閉 会

(配布資料)

- 資料1 総合科学技術会議が事前評価を実施した国家的に重要な研究  
開発「イネゲノム機能解析研究」（農林水産省）の事後評価  
について  
資料2 評価検討会運営要領（案）  
資料3 「イネゲノム機能解析研究」の調査検討の進め方（案）  
資料4 イネゲノム機能解析研究の概要について（農林水産省）

(参考資料)

- 参考1 総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価  
について（平成17年10月18日 総合科学技術会議決  
定）  
参考2 総合科学技術会議が事前評価を実施した研究開発の事後評価  
の進め方について  
参考3 農林水産省における事後評価結果（農林水産省）  
参考4 総合科学技術会議 評価専門調査会 名簿  
参考5 総合科学技術会議議員名簿

(机上資料)

- ・第78回 評価専門調査会 資料5 イネゲノム機能解析研究の概要に  
ついて（農林水産省）（平成21年1月19日）
- ・総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価「イネゲノ  
ム機能解析研究」について（平成14年12月25日）
- ・大規模新規研究開発の評価のフォローアップ結果  
（平成16年8月4日）
- ・第37回評価専門調査会報告資料 イネゲノム機能解析研究（農林水産  
省）（平成16年6月22日）

- ・ イネゲノム機能解析研究－指摘事項等への対応状況－  
(平成16年6月22日)
- ・ イネゲノム機能解析研究：追加説明依頼事項 回答  
(平成16年8月4日)
- ・ 実施者説明内容及び評価専門調査会における意見（イネゲノム機能解析研究）  
(平成16年8月4日)
- ・ 科学技術基本計画  
(平成18年3月29日)
- ・ 分野別推進戦略  
(平成18年3月28日)
- ・ 国の研究開発評価に関する大綱的指針  
(平成20年10月31日)

## 議事概要：

### 1. 評価検討会の調査・検討の進め方について

検討のスケジュール、検討会の運営要領について、それぞれ資料2の案のとおりとすることとした。また、運営要領に基づき、座長より、審議内容の公表について提案、本検討会を評価者の自由な発言を確保するために非公開とすること、府省からの説明者が必要部分にのみ出席すること、会議資料と議事要旨を会合終了後に公表することについて委員の合意を得た。

### 2. 研究開発内容の説明と質疑応答

#### 研究開発の概要等の説明

研究開発の実施状況、研究開発の成果と目標の達成状況・その活用状況、研究開発の成果等による科学的・社会的・国際的な効果、及び、第78回評価専門調査会における委員からの質問関連事項について、農林水産省より資料4に基づいて説明があった。

#### 質疑応答

農林水産省の説明に対し質疑応答が行われた。主な項目を以下に示す。

当初計画で450億円の要求に対し、142億円の実行となったにもかかわらず、継続された課題の多くで、目標を十分達成したとされていることについて

（農林水産省説明）当時、中国や多国籍企業によるイネゲノム解読が先行しており、危機感を持って多額の予算を要求、より多くの課題、より大きく早い基盤整備を計画したが、協議の後、優先度の高い課題に絞って開始。

GMO についてはいまだ国民の理解が不十分ではないのかとの質問について

（農林水産省説明）GMO を極めて重要な技術と位置付け、平成20年1月にそのスタンスを国民に明らかにしている。理解増進活動は、平成17年度から実施、平成19年度からは新たな理解増進活動を実施。

●成果の施策等への活用及び事前評価での指摘事項・留意事項の対処方策等について

農林水産政策上、この研究の成果をどう活かすか、という事前評価時の指摘に対し、農水省は、「食料輸出国に対する競争力確保」「国内農業生産の向上」「途上国支援」を目指して「知財を中心に」と答えているが、

特許の全容の現状、実施許諾の判断、運用基準を明らかにするべき。

### 3. 討議

農林水産省からの説明、および質疑応答を受けて、以下の観点より討議が行われた。

○ 予算規模と成果について

GM0への取組について

農林水産省と研究機関との間の連携に関する管理体制について

海外と日本との研究の比較指標について